

## 花川病院 三浦 友貴 (看護師/回復期リハビリテーション病棟/看護師長)

**功 績** 回復期リハ病棟は患者のセルフケアが自立するように支援しているが、セルフケアの中の服薬管理は在宅復帰の重要な条件である。今回、三浦は看護研究で回復期リハ病棟における服薬自己管理能力の指標を作成することに取り組み、成果を得た。その結果を雑誌リハビリナースに投稿し掲載され、花川病院を全国的にアピールすることができた功績。

**推 薦 者** 丹羽 すみ子 (看護部長/所属部署 看護部)

**推 薦 理 由** 三浦は現在、回復期リハビリテーション病棟の師長です。この研究は看護主任時代に取り組みました。日頃から内服薬自己管理について悩んでいました。在宅にむけて、服薬管理が必要な患者は多数います。どうしたらスムーズに自己管理までいけるかでした。この研究は、現在、各病棟で服薬自己管理患者に活用し、服薬自己管理自立に繋がっています。また、雑誌掲載され、当院をアピールすることができ、この功績を理事長賞に推薦します。

### 内 容

---

この看護研究は健育会グループ第10回看護・リハビリテーション研究会で発表しました。

回復期リハ病棟は入院患者が在宅復帰に向けてセルフケアが自立するよう支援しているが、セルフケアの中の服薬管理はより高い安全性が求められている。独居高齢者の増加や家族の協力が得られないなど、服薬自己管理が在宅復帰の条件となる場合もある。

近年、服薬管理能力評価やFIMを服薬自己管理の指標とする研究はされていたが、対象疾患を絞って検討されているものが多い。

そこで、三浦は脳血管疾患・運動器疾患患者におけるFIM全項目を対象とし、服薬自己管理に及ぼす項目と服薬自己管理が可能となる基準を検討し、服薬が自己管理へ移項するプロトコルを作成した。その結果FIM5項目（整容、理解、表出、問題解決、記憶）を見出し、さらに5項目合計点数から服薬自己管理を開始するカットオフ値を検討し、具体的なプロトコルを作成した。そして、その研究の成果をメディカ出版リハビリナース誌上に発表した。

今回の雑誌発表はプロトコル作成までであったが、その後、妥当性を検証する看護研究に取り組み、妥当であると示唆される結果を得た。

(この研究は2017回復期リハ病棟研究大会で発表しています)